

委員会審議3 上下水道

八潮市の下水道事故を教訓に

埼玉県八潮市で4・75mの下水道本管が壊れ巨大な陥没事故を起こしました。

国の指示で全国で下水道管の緊急調査が行われ、市は91箇所を調査、異常はありませんでした。

また、鉦路市の污水管の本管は大きくても口径は1・5m。大きな破断があっても、八潮のような事故にはつながりにくいこともわかりました。

事故を教訓に抜本的な対策を

事故の原因は硫化水素によるコンクリートの劣化と考えられます。食品残渣なども入っている汚水は流れが弱くなると化学変化を起こし、硫化水素が発生させることがあります。

そこで国は、高低差が大きかったり、地下の埋設物を避けるために下水管を大きく曲げた所などを特定し、5年に一度、調査することを求めています。下水道の管渠の耐用年数は50年とされています。

しかし、八潮の事故はまだ50年にな

らない管で、しかも国が硫化水素が発生しやすいと特定した場所で起きたわけでもありません。

根室市は調査箇所を増やし、年一回の検査に



根室市では緊急輸送道路に指定されている国道や道道などで点検箇所を23か所増やし、5年に一回の点検を年一回に変えます。国の指示待ちにならず、自治体独自の検査体制の強化を委員会で求めました。

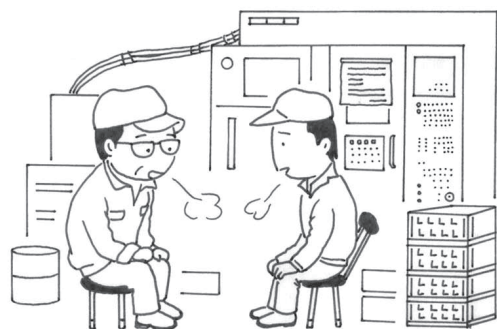
上下水道審議会から料金値上げの答申が出ました。

村上かずしげ議員は、「物価高の中で値上げは容認できない。一般会計からの支援で引き上げるな」と求めましたが、市は水道は独立採算。一般会計の出資もわずかしかな認めないとの答弁でした。



ウォーターPPPって何ですか？

下水道の終末処理場の民間委託を拡大し、運転管理と建設工事が計画作成を、一括10年間、同じ会社に任せるのがウォーターPPPです。これが進むと技術者は役所に不要になります。下水道から上水道へも拡大し、究極は水道の民営化となるかもしれません。民営化すれば料金は大幅値上げ。



ウォーターPPP

導入可能性調査始まる

能登半島地震を見ても、技術者不足で災害からの復旧は大きく遅れます。

終末処理場のうち、最低一か所でも導入しないと、9年度から下水道管工事には国の補助金が出なくなります。国は補助金を人質に民営化を押し付けようとしています。

これからウォーターPPPの問題点をしっかり質していきます。